

大分と首都圏の依頼談話

—大分方言の「アンタ」「オマエ」のフィラー的使用について—

松田 美香

【要 旨】

大分と首都圏の高年層・若年層（同性同士）のペア計4組の談話調査を行い、依頼の談話において依頼者の働きかけを比較した結果、大分談話のほうが、より積極性が見られることがわかった。大分方言談話には被依頼者の都合に介入する例が多く見られ、特に高年層ペアには「アンタ」「オマエ」のフィラー的使用が顕著に観察された。これらは実質的な二人称代名詞でもあり、対人関係に係わる機能を見出すことができる。

【キーワード】

談話、方言、フィラー、機能的要素、コミュニケーション機能

1. 目的と方法

談話研究においては、国内でもその構造や方略（ストラテジー）の研究がなされているが、各地の方言談話については、研究数自体が少ない。そのため、井上（2014）の取り組みでは、各地の方言における場面設定の会話を収録し、まずは談話構造や談話展開についての枠組みや仮説を立てることとした。

方法としては、男女別に同性同士の高年層と若年層のペアを一つの地点に計4組作り、相手への働きかけに応じて「文句」「依頼」「慰め」「勧誘」のロールプレイを行った（ペア入れ替え式ロールプレイ会話と呼ぶ）。ロールプレイは完全な自然談話ではないものの、最初に与えた設定以外は被調査者が使用する言語（方言）を使った発話であり、気心の知れた相手と話すことで、さらに違和感のない談話データが得られると判断した。その調査結果の中で、今回は松田（2014）¹の「場面2：依頼」の首都圏の結果に大分の結果を加え、談話の構造や展開、さらに効果的に用いられている機能的要素を比較することにした²。

具体的には、先に2名の被調査者（話し手と聞き手）に以下の設定を渡してから電話を通じてやりとりをしてもらった。

¹ 松田美香（2014）「ペア入れ替え式ロールプレイ会話：場面2『依頼談話』」井上文子編著『方言談話の地域差と世代差に関する研究成果報告書』国立国語研究所共同研究報告13 - 04 pp.24-40

² 他の働きかけについての同様の考察については、井上（2014）を参照。

「依頼」の設定：話し手（A：依頼者）が「自分の代わりに会合に行ってもらおう」内容の依頼を行うが、聞き手（B：被依頼者）はすぐには受諾せず、一度断って再度 A から依頼を受け、適当なところで受諾する。

電話での調査にした理由は、より言語的なやりとりを際立たせることができ、かつ良質な録音を残せるためである。

本稿では、一度目の依頼に対して「相手が断った後」に注目し、依頼者がどのようなストラテジーを用いて受諾まで到達するかを中心に、地域差・世代差・性差を見出すことにした。

2. 談話構造の比較分析

大分談話の構造を、談話の単位である「話段」の観点³を用いて見てみると、

(1)相手確認・挨拶→(2)依頼の事情説明・依頼→(3)断り→(4)〔事情説明・付加情報・各種提案・情報確認〕・依頼→(5)受諾→(6)〔細部の確認・情報確認〕→(7)念押しと了承→(8)謝辞→(9)別れの挨拶 という構造が捉えられた。(表1～4)

表1 高年層 女性 依頼談話の構造の比較 ()：会話の主導権を持つ側

	首都圏 女性 高年層ペア	大分 女性 高年層ペア
開始部	0001-0005 (A) 相手確認と挨拶	0001-0005 (A) 相手確認
主要部	0006-0022 (A) 事情説明と依頼	0006-0016 (A) 事情説明と依頼
	0023-0029 (B) 断り	0017-0021 (B) 断り
	0030-0036 (A) 事情説明と依頼	0022-0028 (A) 事情説明
	0037-0043 (B) 受諾	0029-0033 (B) 情報確認
	0044-0049 (A) 依頼条件の緩和	0034 (A) 都合変更の依頼
	0050-0057 (A・B) 念押しと了承	0035-0045 (B) 都合変更の受諾
	0058-0063 (A) 謝辞	0046-0050 (A) 依頼
終了部		0051-0060-1 (B) 細部確認：受諾
		0060-2-0068 (A) 事情説明と念押し
		0069-0079 (B) 謝辞
		0080-0088 (A・B) 念押しと了承
	0064-0067 (A) 別れの挨拶	(主要部から連続)

表2 高年層 男性 依頼談話の構造の比較 ()：会話の主導権を持つ側

	首都圏 男性 高年層ペア	大分 男性 高年層ペア
開始部	0001-0003-1 (A) 相手確認	0001-0003 (A) 挨拶
主要部	0003-2 (B) 用件確認	0004-0008 (A) 依頼と事情説明
	0004-0018 (A) 事情説明と依頼	0009 (B) 断り
	0019-0046 (B) 留保と条件確認	0010 (A) 依頼
	0046-0092 (A) 情報付加	0011 (B) 文句
	0093 (B) 受諾	0012-0014 (A) 事情説明
	0094-0096 (A) 念押し、	0015-0023 (B) 代案の提案
	(B) 了承	0024-0030 (A) 情報付加と依頼

³ ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析』 pp.72-73 など。会話の主導権を持って「目的」を果たそうとする話し手を捉え、その移り変わりで談話構造を見る方法。

主要部	0097-0103 (B) 旅費援助の確認 0104-0107 (A・B) 念押しと了承 0108-0109 (A) 謝辞	0031-0035 (B) 受諾と理由説明 0036-0037 (A・B) 念押しと了承 0038-0051 (A) 細部の確認 0052-0054 (A・B) 念押しと了承
終了部	(主要部から連続)	0054-2-0057 (A) 別れの挨拶

表3 若年層 女性 依頼談話の構造比較 () : 会話の主導権を持つ側

	首都圏 女性 若年層ペア	大分 女性 若年層ペア
開始部	0001-0003 (A) 相手確認	0001-0003 (A) 相手確認
主要部	0003-2 (B) 用件確認 0004-0050 (A) 都合確認と事情説明 0051-0073 (A) 日程の確認, (B) 矛盾の指摘 0074-0078 (A) 質問: 依頼 0079 (B) 断り 0080-0104 (A) 情報付加と依頼 0105-115 (B) 条件確認と受諾 0116 (A) 謝辞 0017-0143 (A・B) 報酬の提案と了承 0144-0164-1 (A・B) 念押しと了承	0003-2 (B) 用件確認 0004-0022 (A) 事情説明と依頼 0023 (B) 断り 0024-0030-2 (A) 情報付加 0030-3-0041 (A) 都合変更の提案 0042 (A) 依頼 0043-0053 (B) 報酬の要求と受諾 0054-0056 (A) 念押し, (B) 了承 0057-0067 (B) 細部の確認 0068-0072 (A・B) 念押しと了承
終了部	0164-2-0165 (A) 別れの挨拶	0073-0075 (B) 別れの挨拶

表4 若年層 男性 依頼談話の構造比較 () : 会話の主導権を持つ側

	首都圏 男性 若年層ペア	大分 男性 若年層ペア
開始部	0001-0003 (A) 相手確認	0001-0003 相手確認 (A)
主要部	0004-0008 (A) 事情説明と依頼 0009-0013 (B) 条件確認 0014-0018 (A) 事情説明 0019 (B) 不諾理由: 断り 0020-0024 (A) 事情説明と依頼 0025 (B) 受諾 0026-0029 (A・B) 念押しと了承 0030-0031 (A) 報酬の約束 0032-0033 (A・B) 念押しと了承	0004-0010 (A) 事情説明と依頼 0011-0014 (B) 断り 0014-0024 (A) 依頼と事情説明 0025-0028 (B) 受諾 (A) 謝意 0029-0036-1 (B) 情報の確認 0036-2-0040-1 (B・A) 念押しと了承 0040-2-0042 (A) 謝意
終了部	0034-0036 (A) 別れの挨拶と念押し	(主要部から連続)

調査年: 2012 ~ 2013 年

調査地: 首都圏は国立国語研究所、大分は大分県由布市庄内町

まず、(8)謝辞(謝意)は、高年層大分男・女と若年層首都圏男性、(9)別れの挨拶は高年層大分女性と首都圏男性と若年層大分男性には現われなかった。受諾後の念押しと了承は、高年層男

性と若年層大分女性、若年層首都圏男性では細部の確認を挟んで、2度繰り返された。このことから、「会話終了に至る直前は、念押しと了承、または謝辞のどちらかが必須である」可能性を指摘できる。首都圏談話と比較してみると、念押しと了承の後において、首都圏の高年層男性は「旅費援助の確認」、若年層男性は「報酬の約束」が続いた。その後、高年層は謝辞、若年層は念押しと了承が繰り返されて会話は終了部に入る（または終了）。さらに首都圏女性高・若年層とも、別れの挨拶の直前は謝辞、念押しと了承である。

以上の結果から、依頼談話の構造の共通点として、「念押しと了承、あるいは謝辞の後でなければ会話終了に至らない構造である」ということが言えそうである。

次に、地域差が見られる点を挙げる。大分談話（ただし若年層男性除く）では、B（被依頼者）から一度断られた後、その理由（不都合）に対処して、都合変更の依頼や情報の付加などを行い、「Bの都合を変更させること」で受諾に至っている。具体的には、「グラウンドゴルフ出場の交替」「図書館返却期限を破る」「稲刈りの延期」についての依頼、提案、申し出（と受諾）という下位構造が生じている（表1、2、3の下線部分）。一方、首都圏談話では、高年層女性B（被依頼者）が不都合を理由にして断ると、その後A（依頼者）は自分の窮状を訴える（事情説明）のみで、それ以上の提案・指示などはしない。したがって、下位構造は生じない。首都圏の若年層女性・高年層男性・若年層男性も同様に下位構造を持たない。

地域差としては、相手の不都合に対して、その内容変更を提案・指示する下位構造を持ちやすい大分に対し、首都圏談話においては、そのような構造は持ちにくいと言えるのではないだろうか。性差については、今回の結果からは特に差異を見出せなかった。

3. 機能的要素の比較分析

3.1 依頼の要素比較

熊谷・篠崎 (2006)⁴では、発話の機能を担う最小単位である機能的要素の上位概念として、「コミュニケーション機能」を示している。そして「依頼のコミュニケーション機能」を、〈きりだし〉、〈状況説明〉、〈効果的補強〉、〈行動の促し〉、〈対人配慮〉、〈その他〉のようにまとめている。これにならい、「依頼」における談話の中で、機能を発揮して目的を達する言語要素を分析・抽出した。（表5）なお、具体的な発話は3.2を参照してほしい。

大分談話では、〈効果的補強〉として、高年層女性、若年層女性、高年層男性は、相手の都合に踏み込み、それを変えさせようとする要素が見られる。これに対して、首都圏高若年層女性、高若年層男性ともに、事情や必然性を訴える要素のみで、それ以上踏み込む要素は見られない点で大きく異なる。

全体的なバリエーションの多さについては、松田 (2014) で高年層女性の方に要素が多く多彩であることを指摘したが、今回、大分の若年層女性の〈効果的補強〉、〈行動の促し〉の要素が多く、首都圏と同じような世代差を見出すまでには至らなかった。

次に、〈対人配慮〉については、若年層は高年層より要素が少ない点が指摘できそうだが、首都圏男性は要素数もバリエーションも多く、例外的である（表6）。（ ）内の回数は、同じ要素の繰り返しを見るために便宜的に数えたものである。

⁴ 熊谷・篠崎 (2006) 「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」独立行政法人 国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』（くろしお出版）pp.19-54

表5 依頼の「コミュニケーション機能」＜効果的補強＞の比較
首都圏と大分談話

地点	性別	年層	機能的要素 (＜効果的補強＞をする言語要素)
			大分
		若	必然性、 <u>相手都合の変更提案</u> 、相手の不利益のリカバー約束、相手利益の補強、確認後の連絡約束
	男性	高	相手都合の理解、相手提案の理解、 <u>負担情報の修正</u> 、相手負担の軽減
		若	必然性
首都圏	女性	高	感想への同意、相手事情の理解、事情の同意要求、依頼の理由、相手利益の補強
		若	事情の確認要求、相手利益の補強、事情詳細確認への同意
	男性	高	必然性、話題の指示、費用負担の申し出
		若	必然性、相手事情の理解、相手利益の補強

3.2 依頼の要素の種類と現れ方

大分談話の、依頼を断られた後の二度目の依頼の直前から依頼までの要素を首都圏の同年層と比較する。＜＞は「コミュニケーション機能」を、＜＞は「依頼の機能的要素」を表す。また、／／は、その部分から相手の発話開始があり、発話が重なっていることを表す。

3.2.1 大分高年層女性

◆都合変更の依頼（断りの後）

- ・そやけんな、あんた、ま、グランドgolfer あんた、んー、まあ、あんたが行かんと困るじゃろうけど、＜効果的補強＞＜相手都合の理解＞
- ・なんとかしちくれんかなー。＜行動の促し＞＜依頼の念押し＞

◆依頼

- ・あー、ほんと。ほんと／／ら あんた。ほんなー、あんた、なんとか／／あの一、あの、代わりに、あの一、出してもらって、あんた行っちくれよー。＜行動の促し＞＜直接的依頼＞

表6 依頼の「コミュニケーション機能」＜対人配慮＞の比較
首都圏と大分談話 ()内は要素の出現回数

地点	性別	年層	機能的要素 (＜対人配慮＞をする言語要素)
			大分
若	謝罪 (1)		
男性	高	謝罪 (1)、恐縮の表明 (1)	
	若	謝意の表明 (3)	
首都圏	女性	高	恐縮の表明 (8)、謝意の表明 (4)
		若	恐縮の表明 (1)、謝意の表明 (2)
	男性	高	謝意の表明 (2)
		若	恐縮の表明 (1)、謝意の表明 (1)、謝罪 (3)

3.2.2 首都圏高年層女性

◆対人配慮と事情（間接的な断りの後）

- ・長いね、＜対人配慮＞＜感想への同意＞悪い。ごめん、＜対人配慮＞＜恐縮の表明＞
- ・忙しいのは十分わかんだけどさー。＜効果的補強＞＜相手事情の理解＞
- ・ちょっと、あったしねー、そのときほら、お店があるじゃない。＜状況説明＞＜事情＞
- ・予約が入っちゃったのよー。＜状況説明＞＜事情＞
- ・ごめん／／ねー。＜対人配慮＞＜恐縮の表明＞
- ・こっちもさ、もーほんとは困っちゃっててねー。＜状況説明＞＜事情＞
- ・予約のお客様でもあるしー、＜状況説明＞＜事情＞
- ・それ断ると、あとあとが出てくるじゃない↑。＜効果的補強＞＜事情の同意要求＞
- ・だからどうしようかなーと思って、＜状況説明＞＜事情＞
- ・申し訳ない、＜対人配慮＞＜恐縮の表明＞
- ・Bちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと思／／って。＜効果的補強＞＜依頼の理由＞
- ・かわりに今度さ、ランチごちそうするから。＜効果的補強＞＜相手利益の補強＞

◆意向の確認（間接的な依頼）

- ・悪いんだけど、＜対人配慮＞＜恐縮の表明＞
- ・Bちゃん、出てくれる↑。＜行動の促し＞＜意向の確認＞

3.2.3 大分若年層女性

◆情報付加（断りの後）と効果的補強

- ・いやー、でもさー、ほら、あたしと後輩が出るやん↑。んー、だってー、んー、ほら、もう一人の、Zさんは断るやろうし。んー、やー、頼んでみたんやけどなー。＜効果的補強＞＜必然性＞
- ・ちょっと、どうかなー、んー。図書館は／／今度でもいいと思うんよ。{笑} 今度／／でも。＜効果的補強＞＜相手都合の変更提案＞
- ・今度、今度一緒に怒られに行くけん。{笑} ＜効果的補強＞＜相手の不利益のリカバー約束＞
- ・わたしも延滞／／しちよんけん、怒られ行くけんさー、＜効果的補強＞＜相手の不利益のリカバー約束＞

◆依頼

- ・ちょっと出てくれんかなー。＜行動の促し＞＜直接的依頼＞

3.2.4 首都圏若年層女性

◆理由説明の要求（中断）

- ・でもさー、／／それ、＜情報要求＞＜理由説明の要求＞（中断）
- ・(Bの「困る感じな／／の↑。」に答えて) うんうん、そうなの。＜状況説明＞＜事情＞

◆意向の確認（間接的な依頼）

- ・ごめん。＜対人配慮＞＜恐縮の表明＞
- ・お願いー、でき／／るー↑。＜行為の促し＞＜意向の確認＞

3.2.5 大分高年層男性

◆負担情報の修正（断りの後）

- ・{笑} ま、そらー、わかるけんどー、＜効果的補強＞＜相手都合の理解＞、
- ・やっぱなー、なんか、あんた、稲も枯れかけたし、雨が降ろうごとなっちゃうのに、気ぜわしい

でそげなどころじゃねーんじゃ。〈状況説明〉〈不都合〉

・ま、なんとかー、い、そう、ひ、時間はかからんで、午前中にすむと思うんじゃ。／／ほやけん、ちょ、ちょ、〈効果的補強〉〈負担情報の修正〉

・ちょっ／／と、行っちく、くるっといんじゃがなー。〈行動の促し〉〈依頼の希望〉

◆依頼

・まあ、頼／／むわ。〈行動の促し〉〈直接的依頼〉

3.2.6 首都圏高年層男性

◆事情説明と必然性（断りの後）

・ただこっち、最初はさ、行くなって電話してあったし、Aさん来んの知ってて、それだい、用意してるし、〈状況説明〉〈事情〉

・あっちとしては、僕が行くことを楽しみにしてるんで、〈状況説明〉〈事情〉

・ちょっと、い、い、行かないとね、まずいかなーと思って。〈効果的補強〉〈必然性〉

◆依頼の念押し（直接的な依頼は無し）

・{笑}お願い／／いします。〈行動の促し〉〈依頼の念押し〉

3.2.7 大分若年層男性

◆依頼と事情説明（断りの後）

・そこをねー、なんとか頼むー。〈行動の促し〉〈依頼の念押し〉

・俺も行／／けんのよー。しゅうしょ、〈状況説明〉〈事情〉（中断）

・うん、おらんのよー。〈効果的補強〉〈必然性〉

・だからさ、お願いや、ほんと。〈行動の促し〉〈依頼の強調〉

・なん、予定ないやろー。〈情報要求〉〈相手都合の確認〉

・うん。お願い、ほんと。〈行動の促し〉〈依頼の強調〉

・これー／／逃したらほんと、きち、きちーんよ。〈状況説明〉〈事情〉

3.2.8 首都圏若年層男性

◆事情説明（断りの後）

・あー、{笑}やー、わ、そりゃあわかってるんだけどさ、〈効果的補強〉〈相手事情の理解〉

・ちょっとごめん、〈対人配慮〉〈恐縮の表明〉

・あした、どーしても俺もちょっと行けなくてさー。〈状況説明〉〈不都合〉

・急に、もほんと、申し訳ないんだけど、〈対人配慮〉〈恐縮の表明〉

◆依頼（間接的な依頼）と相手利益の補強

・あした、あの、ちょっと、ボランティア活動、ちょっと、参加してもらいたいんだけど。〈行動の促し〉〈希望の表明〉

・あの、ほんと、今度おごるから。〈効果的補強〉〈相手利益の補強〉

・超お願い。〈行動の促し〉〈依頼の念押し〉

・無理かな。〈行動の促し〉〈依頼の念押し〉

〈効果的補強〉をいくつか重ねた後に〈行動の促し〉をする点は共通しているが、首都圏の場合、どの年層にも〈直接的な依頼〉が出ない。Bの方が受諾をするように仕向け、〈依頼の念押し〉をするという型が抽出できそうである。

また、大分談話では高年層で「あんた」が頻出する(3.2.1、3.2.5 参照)点について、次の章で考察する。

4. 大分談話における「アタ」と「オマエ」

「あんた」だけでなく、大分高年層男性B(被依頼者)の受諾直後の理由説明の部分を見ると、
・もーそら。おまえ、忙しいたって、おまえ、も、おまえがゆうこっちゃけ、おまえ、どげー
かせなしようねーわ、もー。

のように「おまえ」が盛んに差し挟まれる。他に首都圏高年層男性にも「おまえ」が出るが、主語等の役割を持つか、文末詞的なものである。松田・日高(1996)では、大分県東部方言の「あんた」について、「なくても全体の意味に違いはない」、「相手を常に意識し、強調している」、「親しみを込めて呼びかけている」としている。大分の若年層には「あんた」「おまえ」は一例もなく、首都圏の女性にも一例も出てこない。大分の「あんた」「おまえ」が頻出するのは、依頼、断り、受諾の説明時の情報提供者側であった。

4.1 フィラーの定義と研究

林(2008)⁵によれば、フィラーの定義は「発話の一部を埋める音声現象や語句のことを指し、それ自身は命題内容、及び、他の発話との(狭義の)応答関係・接続関係・修飾関係をもたない」とあるが、英語と日本語ではやや異なるようである。英語では「語と語の間を埋めるもの」の要素が主であるが、日本語ではさらに「注意喚起」や「話の和らげ」などの機能も含み、英語の定義より広い機能を含む。

山根(2002)⁶は、日本語のフィラーは音声断片的な「あいまい母音」から、「アノー」や「エート」などの単語、「アノネ」や「ナンテイーマスカネー」などの発話節まで、多種多様であるとし、講演・留守番電話・対話・電話会話のそれぞれでフィラーの出現を分析している。これまで、フィラーは「声的感動詞、間投詞、言いよどみ、つなぎの語、遊び言葉、冗長語、間投声、ヘジテーション(hesitation)」などの様々な名で呼ばれてきた。山根(2002)では、フィラーの三つの機能として、

1. 「話し手の情報処理能力を表出する機能」・・・話し手の話しやすさに関わる
2. 「テキスト構成に関わる機能」・・・発話の切れ目や、発話構造の特別な位置
3. 「対人関係に関わる機能」・・・①話し手が自分の情報に対しての心的態度を表す、
②話し手が聞き手に配慮する、③発話権保持、沈黙回避

を挙げている。(pp.233 - 238 を参考にまとめた。)

4.2 方言談話研究におけるフィラーの先行研究

神部(1996)⁷:兵庫、京都、奈良各領域に「見よ」由来と思われる「間投される特定の説明表現」の研究。その役割を「話し手の自己主張の意図を担うと共に、相手の納得・同意を積極的に指示する」としている。最後に「アナタ」類と「ソレ」類についても「基本的に、相手の同意を期待する自己主張の意図がある。」として、次の研究課題とした。

⁵ 林宅男 編著(2008)『談話分析のアプローチ 理論と実践』(研究社) pp.131-134 執筆担当者は山根智恵

⁶ 山根智恵 著(2002)『日本語の談話におけるフィラー』(くろしお出版) p.237

⁷ 神部宏泰(1996)「近畿方言における特定の指示・呼びかけ表現について—「見よ」形式の用法を中心に—」『ノートルダム清心女子大学紀要 国語・国文学編』第20巻 第1号 pp.1-7

神部 (2003)⁸ : 後半に「播磨方言の『アンタ』間投事象」として取り上げる。事例から意味役割を帰納的に導く方法により、以下のように述べている。

話し手は、自己の待つ情報を、誇張的に相手に持ちかけている。間投の「アンタ」は、相手を改めて捉え直して、その情報を、一方的、誇張的、さらには主張的に持ちかけようとする情意を、頂点的に表示していよう。(p.7)

また、但馬地方の「アンタ」は文末に行われることが顕著であり、それは「念押し・確認・補充」の意図があり、「さらに大きな呼びかけの効果を見せて行われている」とする。また、「それ」系との地理的棲み分けが見られることを指摘し、以下のように述べている。

この両系の間投事象が、同一地域で共存することがきわめて稀なことである。「それ」系間投事象は、相手の内面情報に関心があり、「アンタ」は相手の聞きとりの姿勢に関心がある。とすれば、両者はかなりことなった表現性を保持していることになる。(中略)

いわばこの遊離した特定事象は、会話の表現のリズムを導くと共に、会話の表現の特性を端的に、また頂点的に表示する機能を担っているとも言えるのである。その特性は、基本的には、話し手と聞き手との間に、共通の場の形成を念じるところに生じるものとしてよいのではないか。(p.10)

苗田 (2013)⁹ : 富山方言にも「アンタ」「オメサ」「オマサ」「オマ」のフィラー的用法は顕著に見られることから、その機能を明らかにしようとする。資料は日本放送協会編 (1981)『全国方言資料』、明治書院 (1998)『富山県のことば』所収の談話資料、当該方言研究者の談話資料を用いている。その結果、出現位置は発話の途中で圧倒的に多く、品詞で言えば「助詞」の後が圧倒的に多い。用例から帰納的に機能・役割を導き出し、以下のように述べている。

「アンタ」系のフィラーの役割としては、「新しい情報を切り出す際の注意喚起の役割を担うフィラー」と「話し手の心的態度を表明するためのフィラー」が見られた。(p.21)

山根 (2002) が提示した「発話権保持」や「時間稼ぎ」、「発話権譲渡の手助け」としては使用されていなかった。以上のように、富山方言談話のフィラー「アンタ」類を、山根 (2002) のフィラーの役割をもとに位置づけたものである。

山本 (2014)¹⁰ : 全国の二人称代名詞のフィラー的用法を見渡し、その機能・地域差を見ようとした。フィラー的用法を「独立用法」と呼び、国立国語研究所編『全国データベース 日本のふるさとことば集成』の全国 48 地点を比較した。その結果、富山以西にアンタ類の分布が見られ、北関東から東北には使用そのものが見られないことがわかった。出現位置については、発話の終結部(ママ)に出現するアンタ類は九州に顕著であり、九州の二人称から転成した文末詞とも無関係ではないとした。特に「ターン獲得・譲渡」の機能をこの類に認めたことは新しいが、一般に日本語のターン(話者の1発話)が明確ではないため、さらに検討を要する。

⁸ 神部宏泰 (2003) 「近畿西部方言の間投表現法」『ノートルダム清心女子大学紀要 国語・国文学編』第 27 巻 第 1 号 pp.1-11

⁹ 苗田敏美 (2013) 「富山方言談話における「アンタ」の機能：自然談話における使用実態より」『日本語教育論集』第 22 号 姫路獨協大学大学院

¹⁰ 山本空 (2014) 「方言談話における二人称代名詞の談話機能」『日本方言研究会第 99 回研究発表会 表原稿集』日本方言研究会

4.3 大分方言における二人称代名詞のフィラー的使用例

以下は、大分県の約50年前の談話資料である『方言生活30年の変容 下巻』¹¹中の大分市での談話である。

(1) 大分市 戸次 調査年：1985年 f：女性 64歳 m：男性 70歳
m：ホオレンソガ アンター コトシャ ヤスージカラナー、ソレガ アンタ
ほうれん草が あなた 今年は 安くて、 それが あなた

イチバン モー コマーチョンノジャワーン。
一番 もう 困っているのだよ。

f：タイヘンナ アンタ ダゲキジャーワンナー。
大変な あなた 打撃だねえ。

m：ハーア トーテン オゴツチャーチュチカイ アンター ワシャ キイタンジャガ
はあ とても おおごとだと言うから あなた わたしは 聞いたんだけど

ウチワ モー ニンジン スンダキ イーケド、イマー アンタ ヤシーラシーナー。
うちは もう 人參(が) 済んだからいいけど、今 あなた 安いらしいなあ。

また、以下は2010、2011年に筆者らが行った調査結果である。

(2) 中津市 北部 調査年：2010年 f：女性 81歳 m：男性 82歳
f：マー、シランジャツタンジャラ。 アン、アンタガター オメダタガ
まあ、知らなかったんですよ。 あの、あなたの家は お目出度いことが

アツタツチューター。マツト ハヨー オシユライーノニ アンター。
あったというねえ。 もっと 速く 教えればいいのに あなた。

m：イエイエ、モー アンター、ワシカタン マゴモ アンタ モー オトコジャケンド
いえいえ、もう あなた、 私の家の 孫も あなた もう 男だけれど

ナカナカ ヨメジョ モラワンジナー、
なかなか 嫁を もらわないでねえ、

(3) 玖珠郡九重町飯田 調査年：2011年 m：男性 81歳
m：シー。アメガ フラント コマル。ヨソン ホーン シンブンヤラ ミルト、
うん。雨が 降らないと困る。 余所の ほうの 新聞など 見ると、

アンタ アノ ダムガ カレッシモーチネ、アンタ、デンキモ ナンカ

¹¹ 松田正義・日高貢一郎(1996)『大分方言30年の変容』 明治書院 pp.414-415.

あなた あの ダムが 枯れてしまってね、あなた、電気も 何か

セトウヤクセニャーイカントカ、アーン タウエモ デケントカ イウチカラネ
節約しなければいけないとか、あーん 田植えもできないとか 言ってね

アンタ、オーキナ オーゴッチナッチョルゴトアルネー。シー。コマッチョルバイ。
あなた、大きな 大事となっているようだね。 うん。困っているよ。

大分談話で「アンタ」「オマエ」が頻出するのは、依頼、断り、受諾に関わる説明(ある程度まとまった話)時の、情報提供者側の発話内が多い。しかし、必ずしも「話し手の特権」ではなく、大分市の高年層女性など、聞き手の方でも使用している。

中津市高年層女性の第1発話「アンタガター」にあるように、差し挟まれたフィラー的使用の二人称代名詞は、実質の意味を伴う二人称代名詞と同一形である。また、4の大分高年層男性Bの「おまえ」も同様であった。したがって、「アンタ」と「オマエ」の使い分けは、話し手の二人称代名詞使用と関係がある。中津市高年層女性の第1発話に文末の「アンタ」があるが、文中でのフィラー的使用の場合と文末使用の場合とのイントネーションの違いも調べる必要があると思われる。今後の課題としたい。

5. 結論

大分と首都圏の依頼談話を比較し、大分談話の方にいくつかの特徴を見ることができた。

まず、談話構造からは相手の都合に介入していく結果としての入れ子型構造が見られ、さらに機能的要素からはB(被依頼者)の都合を変えさせるための「提案」や「情報の修正」が<効果的補強>として見られる。そして、大分談話高年層に頻出する、具体的な言語事象として、「アンタ」「オマエ」の二人称代名詞がある。これらはフィラー的使用することで相手を引き付け、ある程度まとまった話をするために使用されていることがわかった。言い換えれば、大分談話の「アンタ」「オマエ」はフィラーの機能のうちの対人関係に係わる機能、その中でも話し手の「自分の情報に対しての心的態度を表す」と「発話権保持」が認められるであろう。

他方、首都圏談話は、A(依頼者)の「事情」を、Bが受諾するまで積み重ねる戦略が見られる。

両地点の結果から世代差・性差よりも地域差のほうが顕著である可能性が示唆された。9

課題としては、文末の「アンタ」の機能の解明(イントネーションの研究)が考えられる。

【附記】

本稿は平成26年9月13日に立命館アジア太平洋大学で開催された社会言語科学会(JASS)第34回大会でのワークショップ「ロールプレイ会話による方言談話対照研究の試み—地域差・世代差・性差・メディア差に注目して—」の話題提供中、「首都圏と大分談話の比較研究—地域差・世代差・性差—」として発表した内容に加筆・修正したものである。

会場での質疑やメンバーとの討議で大変有益な質問や意見を頂戴しました。心より感謝いたします。

本研究はJSPS 科研費 25370539「方言ロールプレイ会話における談話展開の地域差に関する研

究」(代表者 井上文子) および同 JSPS 科研費 24520500「談話における方言の変容—共通語には変化しない方言に注目して—」(代表者 杉村孝夫) を受けている。

参考文献

- 井上文子編著 (2014) 『方言談話の地域差と世代差に関する研究成果報告書』 国立国語研究所共同研究報告 13 - 04
- 神部宏泰 (1996) 「近畿方言における特定の指示・呼びかけ表現について—「見よ」形式の用法を中心に—」『ノートルダム清心女子大学紀要 国語・国文学編』 第 20 巻 第 1 号
- 神部宏泰 (2003) 「近畿西部方言の間投表現法」『ノートルダム清心女子大学紀要 国語・国文学編』 第 27 巻 第 1 号 ノートルダム清心女子大学
- 熊谷智子・篠崎晃一 (2006) 「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」独立行政法人国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』(くろしお出版)
- 苗田敏美 (2013) 「富山方言談話における「アンタ」の機能:自然談話における使用実態より」『日本語教育論集』 第 22 号 姫路獨協大学大学院
- 林宅男 編著 (2008) 『談話分析のアプローチ 理論と実践』 研究社
- ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析』 くろしお出版
- 松田正義・糸井寛一 (1993) 『方言生活 30 年の変容 上巻』 桜楓社
- 松田正義・日高貢一郎 (1996) 『大分方言 30 年の変容』 明治書院
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くろしお出版
- 山本空 (2014) 「方言談話における二人称代名詞の談話機能」『日本方言研究会第 99 回研究発表会発表原稿集』 日本方言研究会